

2022年度放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 2023(令和5)年5月8日

児童発達支援・放課後等デイサービス フェイス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善内容又は目標、工夫箇所など
環境 ／ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			行事等では自治会館を借りるなど、工夫協力して活動できている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			出席人数や状況に応じて職員を増員している。ボランティアや学生アルバイトも活躍している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			施設内はバリアフリーではないが、手すりや間仕切り等の設備が充実している。
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			職員の人事考課制度を導入し、各自の職務目標を立て、半期毎に評価している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			H27(2015)年度から保護者アンケートを継続しており、保護者の意見や提案を行事や活動プログラムに採用している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページでの情報公開と共に、SNSやプリントでも通知している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			●	第三者評価を受ける予定はない。常に利用者や地域住民の意見を受け入れる。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		●		動画視聴による研修受講はしたが、内容の共有のための伝達研修は十分ではなかった。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者との面談を年2回以上実施した。子ども会議、子どもとの個人懇談も適時実施している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			クラウドサービスで書式を共有し、共同作成している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			児発管と主任指導員、イベントは子どもが中心となってプログラムを立案・推進し、保育士・児童指導員が共有している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			個人の目標や特性や希望をもとに集団のテーマを設定し、月毎・週間、日々のプログラムを実践している。長期休暇中には、年長児童らが自分たちの個別プログラムを立案し、参画した。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			

	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			自由遊びやその他の生活時間を含め、本人の意思と体調等を考慮した直接支援をおこなっている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			1週間分の見通しを立て、当日のリーダーや記録係他、役割を分担し、かつ相互に協力体制をとっている。ICTツールを活用しながら、打合せのフォーマットと運用スタイルを改良し、当日中に全員に伝達するようにした。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			記録・伝達の力は養成されているが、連絡や意識の共有が円滑にいかないこともある。不文律の慣例や暗黙の了解を是とせず、言葉やOJTで伝達や連携を重ね、深めていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し支援の検証・改善につなげているか		●		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリング会議日程を早めに設定し、担当者とは共有している。相談支援専門員、学校教諭、SSW、併用事業所との会議や見学受入の機会も持った。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			日誌や個人記録の書式を再改訂し、SSTの項目を増やした。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児童発達支援管理責任者と主任児童指導員、管理者が対応している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			事前・事後の予定変更の確認や遅延の可能性も含めた情報伝達と連携に注力しており、保護者・学校からも電話やメールで送迎・引継ぎ時に協力を得ている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			提携医療機関に緊急時の治療や健康診断等について協力を得ている。（医療的ケアの必要な児童の受入れは現在無い）
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			主として保育所等訪問支援事業の中で、連携を強化している。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			申し送り事項を作成し、本人・保護者とともに情報を共有している。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		●		リモートで受講できる研修を受けたが、直接の連携機会は持てなかった。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			法人他部門のイベント（遠足・工作・調理実習等）や地域の行事に積極的に参加した。

	⑳	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			障害児通所専門部会の一員として会議に参加している。当年度も行事や研修を企画したが、実施は叶わなかった。
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡帳、メールを始めとして、送迎時の懇談や電話相談を日常的に行っている。
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		●		保護者参加の研修・講座は実施できず、当年度も個人別の対応が主となった。お便り等での情報提供も最低限であった。
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約(更新)時の懇談の際にお伝えし、毎月の利用明細や手紙でもお示しするようにしている。
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			子育てに関してだけでなく、生活や家族の心配ごとをいつでも相談してもらえ関係性を築いていきたい。
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		●		見学や懇談など家庭ごとの関わりが主で、保護者交流会や家族参加のイベントは開催できなかった。他事業部門の行事へのご参加は数組ずつ得られた。
	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			体制はあり、対応については可。潜在的なリスクや苦情以前のニーズ、本音や悩みを察知してケアしていけるが今後の課題。
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月のメールでの便りの他、ブログやInstagram・facebookでも活動内容のレポートを配信している、HPや関連サイトに情報公開有り。
	㉘	個人情報に十分注意しているか	○			情報やプライバシーにふれる際は、本人・保護者にその都度確認している。
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			音声言語だけでなく、文字や画像・動画を用いて、複数回・複数人での確認・伝達、記録するなど、個々に応じて改善した。技能・意識向上の努力を継続する。
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			地域行事を複数回企画し、公民館・自治会館など地域資源を活用した。加入する自治会、近隣住民の参加・協力が大きな支えとなった。
非常時等の	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		●		各種マニュアルを即時抽出使用できるように紙ファイルの他、クラウドデータに保管している。具体的な内容は保護者にお示しできていない。
	㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			ケガの応急処置や防犯等も含め、対応力を養うため繰り返し実施している。AEDを

対応					設置し、年長児童やボランティアスタッフにも使用方法や救助の呼び方を伝えた。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止委員会主催の全体研修を実施した。関連記事・資料から学びレポートを共有するなど、職員の在宅学習を促進した。行動規範と「子どものセーフガーディング」を設定している。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		全員から承諾は受けているが、実施の際は、保護者に報告の上、検証・記録している。不適切な言動についても同様。また、同じ場にいた場合の当事者以外の心理的安全性の確保に注力し、フォローを怠らないようにしている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		保護者からの伝達にとどまっている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		記録・報告内容を全従業者に周知徹底しているが、ヒヤリハットとしての報告件数は少なかった。未然に防げた事例とその経過についても記録・共有し、全体の経験知を蓄積している。

○・はい=黒字   ●・どちらともいえない=青字   ●・いいえ=赤字

認定 NPO 法人ワークレッシュ